

✠ 布教という名に隠れた侵略計画 ✠

日本にキリスト教を伝えたのは、戦国乱世真っ只中の1549年、鹿児島に上陸したイエズス会創設メンバーの1人であったスペイン人宣教師「フランシスコ・ザビエル」であった(図1)。



図1. ザビエル



図2. フロイス

ザビエルに引き続き、1563年、ポルトガル人宣教師「ルイス・フロイス」(図2) が来日すると、時の権力者「織田信長」から布教活動が許可されたこともあり、京都や西九州中心にキリシタンが急増した。

信長が本能寺で討たれた1582年、キリシタンの信者数は15万人と京都の全人口の半数を占めていた。その後、信長の後継者となった豊臣秀吉は、初めキリシタン保護政策を継承していたが、1587年、突然、態度を豹変させ「伴天連追放令」(図3) を発した。“伴天連(バテレン)”とはポルトガル語で宣教師を意味する。



図3. 伴天連追放令

秀吉は信長の政策を継承し、当初、キリスト教の布教を容認したのは、布教の裏にある西欧諸国との交易“南蛮貿易”(図4)に利益を感じていたからである。

南蛮貿易では鉄砲や火薬、中国製の生糸などが輸入され、日本からは金・銀・刀剣類などが輸出された。

秀吉に保護政策を見直すキッカケを与えたのが、1586年、九州の諸将勢力を討って服従させ平穏を維持するための「九州平定」であったが、実際には九州統一を目論んだ薩摩の島津軍と秀吉の戦いであった。この戦いに島津義久は敗れ、秀吉に和睦を申し入れた。



図4. 南蛮貿易

九州遠征に同行したイエズス会の最高責任者「ガスパール・コエリヨ」(図5) に、秀吉は4つの詰問をした。

- ①日本人を熱心にキリシタンにする理由
 - ②神社仏閣を破壊、僧侶を迫害し、融和しない理由
 - ③人間に有益な牛馬を食べる理由
 - ④多数の日本人を奴隷として国外へ連れ出す理由
- その結果、伴天連追放令を突き付け、イエズス会の教会など次々に取り壊させた。



図5. コエリヨ



図6. スペイン艦隊

なぜ、秀吉は伴天連追放令を発令したのか？

それは宣教師達の隠れた意図が“日本侵略”だと見抜いたからである。コエリヨが博多で秀吉を出迎え、最新鋭の軍艦に秀吉を乗船させ、いつでもスペイン艦隊を動かせると恫喝・自慢したため、彼らの植民地計画を瞬時に看破したのであった(図6)。

キリシタン大名が自分達の領地をイエズス会に寄進し日本の大切な国土が西欧人によって蚕食され始め、最初に宣教師、続いて商人、最後に軍隊を送って国を乗っ取ろうとする植民地計画が実行されようとしていたのである。

秀吉が伴天連追放令を発令した最大の理由は、日本人の奴隷問題である。貧しい子供達がタダ同然で奴隷として売られていることを九州遠征で知ったのである。

九州遠征に同行した大村由己は「九州御動座記」で“日本人が数百人、男女問わず南蛮船に買い取られ、獣のように手足に鎖をつけられ船底に追いやられた。

地獄の呵責より酷い。牛馬を買い取り、生きながら皮を剥ぎ取り、宣教師は手を使って食べ、無礼の儀、畜生道の様子が眼下に広がっている”(図7)。



図7. 大村由己「九州御動座記」

何とも酷たらしい様子だが、当時の西欧商人にとって有色人種の奴隷取引は恥じない商取引だった。

その理由は、1452年、ローマ教皇「ニコラウス5世」がポルトガル人に対し“異教徒を奴隷とすることを許可”していたからである(図8)。



図8. 「ニコラウス5世」

当時西欧では、食事にスプーンやフォークを使う習慣がなく肉を手掴みで食べていたため、日本人が箸を器用に使って食事する様子に驚愕していた。

ポルトガル人が主導し海外に連行された日本人奴隷は少なくとも10万人以上と言われている(図9)。

この実情に憂慮した秀吉は、奴隷売買を即刻停止させるよう命じ、売られた日本人を連れ戻すことを伝え、人身売買禁止令を発したことで、日本人奴隷の取引は終息に向かうのであった。

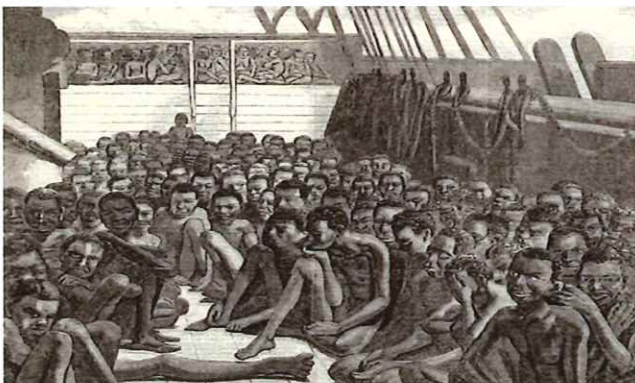


図9. 日本人奴隷

もし天下統一のために秀吉が九州を訪れていなければ当時のキリスト教のもつ独善性や野望に気付かず、日本国土は西欧列強によって侵略されただけであろう。秀吉はその瀬戸際で食い止めたのであった。

1596年、多くの貿易品を積み、スペイン船「サン・フェリペ号」(図10)が台風遭遇して土佐に漂着。南蛮貿易の商売敵であるポルトガル人が“スペインが日本を征服しようとしている”と秀吉に告げ口したことで秀吉はキリスト教に強い驚異を感じ、スペイン人宣教師・修道士の計26人を長崎で処刑した(図11)。これはポルトガルよりも露骨に日本の植民地化を推進するスペインに対する秀吉一流の見せしめであった。

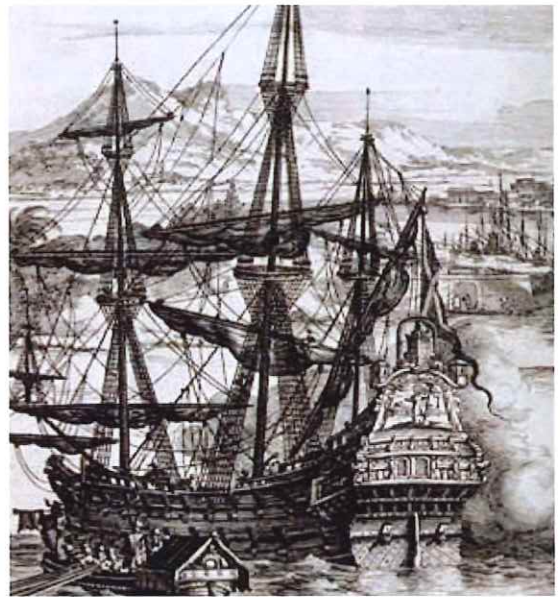


図10. サン・フェリペ号



図11. サンフェリペ号事件による処刑

現代の我々は秀吉に対し、キリシタンを弾圧した非道な君主というイメージがあるが、実際にはスペイン系のフランシスコ会への処刑が唯一直接的な迫害であった。

運命の悪戯か？ポルトガル系のイエズス会への弾圧・迫害は免れたのであった。

豊臣秀吉は“為政者”として、日本の国土や国民の安全を守るために最善の選択をしたのであろうか。